

養老5(721)～神亀1(724)～天平6(734)

造宮卿藤原武智麻呂 二卿体制、一人公卿。

神亀1(724) 催造司設置。造宮卿見えず。造宮の統轄。

聖武即位に伴う改作か。

神亀3 726 造難波宮司設置。藤原宇合を知造難波宮事とする。

内乱と遷都、東大寺造宮

天平12 740 藤原広嗣の乱。天皇、東国行幸の後恭仁宮へ遷る。恭仁遷都詔。

天平13 741 平城の東西市を恭仁へ遷す。

任造宮卿。従来の造宮省が担当。京の造宮も。

天平14 742 紫香楽宮造宮開始。造離宮司任命。造宮省の一部を割く。

天平15 743 平城宮大極殿、歩廊を恭仁に移築、完成。

紫香楽宮で廬舎那仏造立発願。

以後、紫香楽宮造宮に集中。恭仁宮造宮停止。

天平17 745 平城還都。直前まで紫香楽宮造宮継続。

天平勝宝4 752 東大寺大仏開眼供養。

天平勝宝8 756 聖武太上天皇死去。遺詔により道祖王立太子。

称徳朝の造宮 東院・東内

天平宝字8 764 恵美押勝の乱。孝謙上皇重祚。称徳天皇。

天平神護1 765 高麗福信任造宮卿。(宝亀7(776)まで在任確認。)

神護景雲1 767 東院玉殿完成。東内の造宮。造東内司設置。

神護景雲2 768 修理司長官次官の任命(初見記事)。宝亀9(778)まで確認。

造宮省は東院・東内の造宮で繁忙。日常的修理担当か。

神護景雲4 770 称徳天皇死去。白壁王立太子。光仁天皇として即位。

光仁朝の造宮 天武系天皇から天智系天皇へ交代。

宝亀4 773 楊梅宮造宮完成。担当は造宮卿高麗福信。東院造宮を継承か。

桓武朝の平城宮

天応1 781 桓武天皇即位。

延暦1 782 造宮省・勅旨省・造法華寺司・鑄銭司廃止。

雑色作手は木工寮・内蔵寮へ配転。

長岡京遷都

延暦3 784 任造長岡宮使。京造宮も担当。年末までに内裏、大極殿完成。11月遷都。

延暦4 785 造宮使藤原種継射殺。早良親王廃太子。遷都抵抗勢力の粛正。

延暦5 786 太政官院完成。

延暦8 789 東宮完成。西宮より遷る。「造東大宮所解」木簡出土。

延暦10 791 平城宮宮城門を移築。

平安京遷都 洪水被害、早良親王の怨霊を避け、遷都。

延暦12 793 平安京遷都決定。造宮開始。造宮使、のち造宮職担当。東院遷御。

延暦13 794 平安京に遷都。

延暦24 805 徳政相論。造宮職停止。藤原緒嗣と菅野真道の議論。

桓武天皇、緒嗣の進言を容れる。